

③ 川にちなんだ資料館等 ※以下は廃校を活用した施設ではありません。

資料2-3

No.	名称	住所/HP	施設概要	講座・イベント	地域概要(特徴)
1	彩湖自然学習センター	埼玉県戸田市大字内谷2887番地 (www.city.toda.saitama.jp/soshiki/378/)	<p>『フィールド全体が博物館、たっぷりと自然体験を』</p> <p>戸田市と建設省(現在の国土交通省)との共同事業で、戸田市立郷土博物館の分館として1997年6月1日開館した。</p> <p>(主な施設)</p> <p>1階 「水中のふしぎ」 荒川の中流域の環境とそこに住む生き物の生態を、さまざまな模型と水そうによって紹介</p> <p>2階 「水辺のふしぎ」 水辺の環境の多様性と生物どうしの食物としてのつながりなどの生態系を、大型造形と水辺シアターをとおして紹介</p> <p>3階 「草原・湿原のふしぎ」 室内全体を草原・湿原に見立ててあり、遊び感覚でかくれた生き物たちを探せます。</p> <p>4階 「林のふしぎ」 樹木に生息するさまざまな生き物の様子が拡大して展示してあります。 「学習室」 各種講座や彩湖周辺の概要説明や、雨天時のミニ講座なども開催。</p> <p>5階 「荒川のすがた」 荒川の治水・利水の歴史や現在の荒川のすがたを紹介。 調整池が一目でわかる模型や防災に関する情報が分かる。 展望スペースからは彩湖や荒川が一望できる。</p>	<p>◇講座(直近の例) 「笹目川で投網体験と生きものさがし」(平成28年10月) 戸田の漁協の方たちに投網を教わる。 実際に笹目川で投網を体験したり、タモ網で生きものを採ってつかまえる。</p> <p>◇自然体験学習 自然体験の場(自然体験学習フィールド)を提供している。 ・バードウォッチング ・水辺の生き物観察 ・植物の観察 ・昆虫の観察</p> <p>◇サイエンスサポートプログラム 戸田市内小・中学校からの要請にもとづき、理科、総合的な学習の時間において資料や教材等を持参して授業づくりを支援している。自然のすばらしさについて話をしたり、顕微鏡の使い方や観察の仕方などの説明を行っている。</p>	<p>戸田市は、埼玉県の南東部に位置し、荒川の自然に恵まれ、江戸時代には中山道の「戸田の渡し」が設置され、交通の要衝として栄えてきたまちです。また、1964年の東京オリンピックをはじめ、各種国際大会や国民体育大会のボート競技会場となる「戸田ボートコース」や年間100万人以上が訪れる「彩湖・道満グリーンパーク」などがあり、水と緑豊かなオアシスのようなまちである。</p>
2	荒川知水資料館アモア	東京都北区志茂 5-41-1 (www.ktr.mlit.go.jp/arage/arage_index007.html)	<p>『あなたが知らない様々な荒川に出会えるコミュニケーションスペース』</p> <p>荒川知水資料館は荒川流域の人と情報の交流、また北区における河川公園管理の拠点としてこれらの機能を集結させる形で平成10年3月に開館した。</p> <p>(主な展示内容)</p> <p>1階 「荒川情報ボード」 荒川の上流から河口までを概略地図で紹介。 「水槽コーナー」 北区の荒川で見られる魚がじっくり観察できる。 「イコノス」 タッチパネル画面で荒川流域を衛星写真で見れる。 「ロビー」 荒川に生息する野鳥の バードカービング(野鳥彫刻)や昆虫の標本を展示</p> <p>2階 「流域模型」 「荒川放水路の歴史」と、「ゼロキロメートル地帯の出現」について模型展示。 「都市河川・荒川(浸水シミュレーション)」 赤羽や浅草など20地点の浸水シミュレーション映像が見れる。 「青山 土(あきら)コーナー」 荒川放水路、旧岩淵水門工事に携わった青山士について映像と、氏の遺品を展示 「自然豊かな大河・荒川」 荒川の自然・生き物や横山大観の描いた約30mの「荒川絵巻」などが液晶タッチパネルで見られる。</p> <p>3階 「地域交流スペース」 荒川をフィールドとした地域の方々の活動や、小中学校の総合的な学習の時間を支援するため、自由に使えるオープンスペース</p>	<p>◇講座(直近の例) 「パナマ運河と荒川放水路」 (平成28年4月23日～9月14日) パナマ運河と荒川放水路を青山士氏を通して知る</p> <p>◇企画展(直近の例) 「もしもの洪水防災展」 (平成28年8月16日～9月19日) なぜ洪水はおきることには始まり、準備しておくものや情報の集め方をパネル展示。 避難先で使える、「簡単便利グッズ」も紹介。</p> <p>◇企画イベント(直近の例) 「荒川・東京港“船上”親子学習会」 (平成28年8月18日) 河川・港湾施設を水上からの視点で見て、荒川放水路と東京港の役割について理解を深め、防災意識の向上や、水上輸送を担う河川・港湾の重要性を親子で実感する。</p> <p>「荒川水門探訪」(平成28年2月27日) 荒川放水路の歴史を資料館で学び、現在の治水対策を水門工事の現場を見学しながら、荒川の治水対策事業を知る。</p>	<p>東京23区のひとつ「北区」は、その名のとおりに東京の北部に位置し、荒川を挟んで埼玉県と接している。 区の西側は武蔵野台地の一部をなす高台で、それを削るようにして石神井川などいくつかの川が流れている。区の東側は低地で、台地との境は崖線になっている。こうした地理的な特徴から、北区には湧水や滝が多く、水に恵まれた土地として古くから知られていた。水が豊富で、交通の要衝でもあるため、王子周辺には大小の工場が林立し、製紙の街として発展した。区内には飛鳥山公園、清水坂公園、赤羽自然観察公園、都立浮間公園など、緑豊かな公園が多い。</p>
3	川の博物館	埼玉県大里郡寄居町小園39 (www.river-museum.jp)	<p>『川を見る、川を感じる、川を知る、体感する博物館』</p> <p>埼玉県立川の博物館は、母なる川「荒川」をテーマにした総合博物館。荒川の歴史・民俗・自然を、様々な視点で展示・紹介している。</p> <p>(常設展示) 『本館第一展示室』 テーマ「荒川と人々のくらしとの関わり」 ・第1ゾーン 荒川の5流区を環境造形して、実際に水を流し、鉄砲堰、船車、荷船などの大型復元模型を設置 ・第2ゾーン 今日的な川の抱える諸問題を考えるゾーンで、荒川にちなむ信仰、水の浄化、治水などの展示と、川と水の科学を実験できるワークショップからなる。</p> <p>『荒川大模型173』 荒川の源流(甲武信岳)から河口(東京湾)までの流れと本流沿いの地形を千分の一に縮小して表現した施設。ガリバーになったような気分での地形学習ができる。 「173」は、一級河川荒川の長さが173kmであることから。</p> <p>『溪流観察窓』 イワナ、ヤマメ、カジカ、アブラハヤ、ヤリタナゴ、シマドジョウ、カマツカの泳ぐ姿、エサを食べる様子を間近に観察することができます。</p> <p>『水車小屋広場』 埼玉県にかるうじて残っていた水車2棟(皆野のコンニャク水車・東秩父の精米水車)を解体し、敷地内に復元したものです。水車が生み出すエネルギーのメカニズムを学習できる。</p>	<p>◇かわはく体験学習・出張授業 博物館内や荒川の川原では、荒川を教材にした様々な体験学習ができる。 また、各学校への「出張授業」も行っている。</p>	<p>埼玉県の北西部、荒川の中流域、長瀬のすぐ下流に位置し、その左岸に発達した。古く秩父往還の街道筋にあり、宿場町として栄えた。また、街の対岸にはかつて鉢形城があり、その城下町でもあった。 1985年(昭和60年)に環境庁(現在の環境省)から「風布川(ふうぶがわ)・日本水(やまとみず)」が名水百選、1995年(平成7年)には国土庁(現在の国土交通省)から町全域が水の郷百選、林野庁からは「日本水の森」が水源の森百選、2006年(平成18年)には鉢形城が財団法人日本城郭協会から日本100名城の認定を受けている、豊かな自然と歴史を有する町でもある。</p>

③ 川にちなんだ資料館等 ※以下は廃校を活用した施設ではありません。

資料2-3

No.	名称	住所/HP	施設概要	講座・イベント	地域概要(特徴)
4	千葉県立関宿城博物館	千葉県野田市関宿三軒家143-4 (www2.chiba-muse.or.jp/?page_id=61)	<p>『「河川とそれにかかわる産業」をテーマに河川改修や水運の歴史を紹介』</p> <p>千葉県立関宿城博物館は、千葉県の最北端で利根川と江戸川の分流点のスーパー堤防上にあり、平成7年11月に開館しました。 (施設案内) 「エントランスホール」 近世末の関宿城下模型や博物館の展示内容がわかるジオラマを設置 「第一展示室「房総の河川 近現代の利根川・江戸川」」 明治時代以降に行われた利根川流域での大がかりな河川改修工事や利根運河の開削などの概要を様々な資料や模型で紹介 「第二展示室「房総の河川 近世の利根川・江戸川」」 江戸時代初頭に行われた利根川流域における大がかりな河川改修や、手賀沼・印旛沼の干拓などの様子を絵図や模型で紹介 「第三展示室「河川交通と伝統産業」」 利根川水運で活躍した高瀬船や、河岸問屋と醤油蔵を再現。 近世から近現代にかけての利根川水運の推移や、河岸の発展とともに育まれた様々な文化や民俗について紹介。 「企画展示室」 関宿藩や関宿に関する展示 「展望室」 関宿城の天守閣部分を再現。展望室からは、利根川・江戸川の流れをはじめ、筑波山・日光連山・富士山など関東平野を取り巻く山並みを遠望することができる。</p>	<p>◇館内子ども向けプログラム「せきはく調査隊」 「せきはく調査隊」は、参加する子ども一人一人が博物館の調査をする「隊員」となるという設定で、ワークシートを解きながら館内を見学するプログラム。</p> <p>◇博物館資料の利用 むかしの道具(おけ、火打ち石、七輪、ます、釜、おひつ、棒ばかりなど)や古文書、学習キット(舟運船模型キットなど)の資料を貸し出している。</p> <p>◇出前授業 「関宿藩の歴史」や「舟運で栄えた関宿」「勾玉づくり」の出前授業を行っています。</p> <p>◇職場体験 学生の職場体験の場を設けている。</p>	<p>関宿町(せきやどまち)は千葉県の最も北にあり、かつて東葛飾郡に属していた町で、現在は編入合併により野田市になっている。室町時代時の1457年に関宿城の城下町になってから江戸時代まで商業・水運業・城下町・宿場町として多様な街として発展した。しかし、明治時代に鉄道が普及すると水運業が衰退し、その後は農村地帯として発展した。 地形は平坦であり、江戸川と利根川沿いは低地で、そこに農地が集中している。平坦な地形ゆえに標高は低く、最高標高地点は15.6mである。</p>
5	輪中の郷	三重県桑名市長島町西川1093番地 (www.waju.jp/4_shisetsu.html)	<p>『輪中をテーマに、知・遊・憩』</p> <p>輪中の郷は、平成5年に「輪中」をテーマに長島町の歴史・文化・産業を紹介する複合施設として誕生し、民具を中心に古文書・絵画など一万点近く収蔵している。 (主な施設) 「エントランス・ホール」 長島町のアウトラインを説明。長島一向一揆を題材に、その壮絶な歴史のドラマ「葦と女と」(市原悦子主演)を上映 「長島のあゆみ」 東日本方言と西日本方言の境界線上に位置する長島の言葉のルーツを紹介。輪中特有の建物である「水屋」の立体模型や、古地図やその変遷を展示。日本の小パナマ運河と呼ばれる「船頭平閘門」を模型で紹介。 「明日への遺産」 洪水から生活を守る暮らしの知恵など長島の文化を紹介。長島ゆかりの人・芭蕉とその弟子曾良の肖像画をもとに二人の会話をキュービッドビジョンで再現。 「伊勢湾台風」水防の大切さを訴える「防災システム」「排水機模型」など展示。 「輪中の暮らし」 往時の輪中の生活を偲ぶことができる。洪水の際の避難場所「水屋」の移設・復元。「水屋の備品」、大鎌、大ヨツゴなど「輪中の民具」、「母屋」の復元、輪中の風物詩「堀田とくね田」など。 「長島からの贈りもの」 販売コーナーや体験コーナー(木曾三川河口部でとれた海苔をつかった「海苔すき体験」)を開設。</p>	<p>◇体験農園 約1haの農園で、自然を満喫しながら、安心、安全でおいしい野菜の収穫体験ができる。 「春たまねぎ収穫体験」「春ジャガイモ掘り体験」 「落花生収穫体験」「さつまいも掘り体験」 その他</p> <p>◇加工教室 自分で作る楽しさを味わってみませんか。どなたでも参加できます。 「イチゴのケーキ」「トマトケチャップ」「梅干し作り」 「米粉パン」その他</p> <p>◇企画展 長島に関わる歴史的あるいは文化的遺産・作品等を展示し、より深く輪中を理解する。 佐藤昌胤、上原欽二、石垣定哉など、館蔵されている現代画家の絵画を展示します。</p>	<p>長島町は、三重県の北勢部、木曾三川河口部にかつて存在していた町で、2004年桑名市・多度町と合併し新しい桑名市となり廃止した。木曾三川河口部に位置し、町全域が平坦低湿。かつては堤防に囲まれた複数の輪中によって構成されていた。明治時代に行われた木曾三川分流工事に伴って、輪中を分けていた小河川の多くが廃川となるとともに一部の土地は長良川の新河道となり、現在のような地形となる。1995年全国水の郷百選選定地。戦国時代には一向宗の東海地方の拠点となったが、織田信長により滅ぼされた(長島一向一揆)。1959年(昭和34年)には伊勢湾台風によって、町を囲む堤防が15ヶ所で破堤。地理的に人の行き来の障害となる木曾三川に挟まれたことで、西日本と東日本の文化の境界に当たる例がある。</p>

③ 川にちなんだ資料館等 ※以下は廃校を活用した施設ではありません。

No.	名称	住所/HP	施設概要	講座・イベント	地域概要(特徴)
6	輪中館・輪中生活館	岐阜県大垣市入方2丁目1611番地1 (www.city.ogaki.lg.jp/0000000609.html)	<p>『先人たちが水と闘う知恵から生まれた輪中文化』</p> <p>□輪中館 この地域でよく見られる輪中について、資料と模型などで江戸時代から現在までの歴史や景観をわかりやすく解説・展示した施設。 (展示内容) ・空中から見る大垣輪中 ・輪中をとりまく地形と気象 ・輪中独特の民家のつくりを再現 ・明治期の十六輪中の精密模型 ・水防工法のミニチュアと水防資材</p> <p>・輪中の整備に努めた人々 ・江戸・明治期の治水関係資料 ・農具・漁具に見る輪中の知恵 ・ジオラマとビデオによる輪中景観の紹介</p> <p>□輪中生活館 輪中生活館は、市指定重要有形民俗文化財の旧名和邸を整備し、公開できるようにしたもの。名和邸は江戸時代から続く旧家で、母屋・住居式水屋1棟・土蔵式水屋1棟・納屋1棟などがあり、輪中地帯の典型的な中農民家の様子を備えている。輪中館を補完する施設として、輪中に暮らす人々の伝統的文化を継承する「村のすまい・村の生活」を紹介する施設、また輪中地帯の民家の「生活のにおいを感じる、ふれる」ことができるようになっている。</p>	<p>◇親子輪中巡り(平成28年8月10日) 大垣市内の「輪中」に関する史跡・施設をバスで巡る。大垣輪中研究会の先生方を講師に迎え、大垣の特色である「輪中」を学ぶ。 「水防倉庫」、「排水機場」も見学</p> <p>◇「飛びだせ！イングリッシュ」外国の方々と水まんじゅうづくり(平成28年8月4日) 市内の小学5・6年生とALT(外国語指導助手)と一緒に水まんじゅうづくりと英語によるコミュニケーションを楽しむ。</p> <p>◇寺子屋土曜塾「親子水まんじゅうづくり」(平成28年7月24日) 先人から今も受け継がれ作り続けられている「水まんじゅう」づくりを家族で体験する。 「水まんじゅう」は、どのようにして生みだされた水菓子なのか・・・現在も作り続けられることができるのはどうしてなのか？など大垣の食文化の由来を知る。</p>	<p>地域概要(特徴) 大垣市は、日本のほぼ中央に位置し、古くから中山道や美濃路などの主要街道が通る交通の要衝であったことから、東西の経済・文化の交流点として栄えるとともに、天下分け目の関ヶ原合戦などの戦いの舞台にもなった。また、俳人・松尾芭蕉が「奥の細道」の旅を終えた地としても知られ、俳句文化が息づく、文化の香り高いまちである。豊富で良質な地下水から、「水の都」と呼ばれる。豊富な地下水は大垣市の上水道の水源であり、地下水を生かした菓子などの食品づくりも盛んに行われている。かつて繊維産業が多かったのも豊富な地下水を生かしてのものであった。</p>